

第2期紋別市総合戦略

紋別市総務部企画調整課企画係

はじめに

紋別市はオホーツク海沿岸のほぼ中央に位置し、南北41km、東西34km、総面積は830.70km²の広大な市域を有しています。市域の約8割を森林地帯が占めているほか、海岸線は28kmに及び、海・山・川に囲まれた雄大で美しい自然環境・景観を誇ります。気候は、道内の内陸に比べると比較的穏やかで、年間平均降水量は800mmと少なく、年間の降雪期間は130日前後となっているほか、平年の流水初日は1月下旬、流水終日は4月上旬で流水期間は70日前後となっています。交通は、札幌市から乗用車で4時間（270km）、旭川市から2時間30分（140km）となっており、高規格幹線道路旭川・紋別自動車道の整備促進を図っています。また、紋別羽田直行便が運航しているオホーツク紋別空港を擁しているため、道外からのアクセスも良好です。

人口は昭和37年の42,524人をピークとしてそれ以降減少傾向にあり、令和2年の人口は21,224人まで減少しています。また、将来人口は、2030年に17,447人、2040年に13,743人と今後20年間で約35%減少するという結果が示されています。第2期紋別市総合戦略では、地方創生の根本的な課題である人口減少に着目し、将来にわたり持続可能な行政運営を確保できるよう、定住人口・関係人口・交流人口を拡大・創出していくとともに、年齢や性別、障がいの有無や国籍などに関わらず、この街に住んでいる全ての市民が活躍でき、活気あふれ選ばれるまちづくりを目指しています。



紋別市の位置図

総合戦略の体系

総合戦略の体系は、上位指標＝基本目標＝施策の3層となっています。紋別市の独自性を発信しつつ、国により示された新たな視点を勘案するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の理念に沿って、市民・地域団体・企業など、あらゆるステークホルダーや多様な活動主体と連携し、社会・経済・環境に関わる様々な課題を統合的に解決していく視点をもって取り組むこととしています。



基本目標(1)~(5)

(1) 力強い産業を確立し、企業と働く人がともに輝けるまちをつくる

市民の暮らしを守り、まちが持続的に発展していくためには、安定した雇用の場とそこで働く担い手を確保し、地域に活力を創出する足腰の強い産業づくりが必要です。このため、経営基盤の強化や就労環境の整備を支援し、将来にわたって発展し続ける産業の確立を目指しています。また、創業や事業承継などによる新たな商業の力の創出に支援するとともに、雇用の確保や人材の育成を推進するなど、企業と働く人がともに輝けるまちづくりを目指しています。紋別市では、人口減少に伴い産業分野を問わず労働力が不足している状況にあり、市内の経済活動を担う一員として、外国人技能実習生や特定技能などの外国人材を積極的に受入しています。具体的な取組みとしては、国際化推進員（タイ・ベトナム人）や海外人材雇用推進員の任用により、特定技能など外国人材の雇用を希望する企業とのきめ細かなマッチングや在留資格手続等を支援



外国人就労の様子

しているとともに、今年度から新たに外国人留学生インターンシップ受入支援事業補助金を創設したところであり、農業や水産加工業のほか、福祉や清掃業など新たな分野の雇用に向けて首都圏等から外国人留学生を受入するなど、多様な業種で外国人就労を拡大しています。

(2) もんべつつなの恵まれた豊かな資源を活かし、稼ぐ力を高め、人が集まるまちをつくる

穏やかな気候や豊かな食資源など、紋別市が有する地域の魅力を磨き上げ、更なる人の流れを創出し、経済循環を創り出すことは地域経営を進める上で非常に重要な視点です。このため、世界を視野に入れた幅広い活動や柔軟な発想、多様な手法を取り入れながら定住人口・関係人口・交流人口を創出・拡大するとともに、より地域との関わりが強まるよう施策展開し、人口減少により生じる多様な課題に対処していきます。特に、流水砕氷船ガリンコ号Ⅲ IMERUの就航や流水観光の拠点施設である紋別市海洋交流館の増築など、流水観光をメインとした国内・国外の観光客の誘客を図っており、併せて、オホーツク紋別空港の利用促進を図るため遠紋8市町村（紋別市・遠軽町・湧別町・佐呂間町・滝上町・興部町・西興部村・雄武町）が「一丸」となって航空運賃補助や空港送迎バスの無料化等に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の拡大により、国内・国外の観光客が激減している中、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、人の流れを効果的に地方に呼び込み、交流人口の拡大、二地域居住、さらには定住へと繋つなげる施策を展開していきます。



流水砕氷船ガリンコ号Ⅲ IMERU



紋別市海洋交流館

(3) 若い世代の結婚・出産の希望を叶え、健やかな子どもの育ちを支えるまちをつくる

女性の就業状況は、出産・育児期にあたる20代後半から30代にかけて増加傾向にあり、出産を契機に離職せず、就業を続ける人が増えています。女性がいきいきと働きながら出産・子育てをするためには、安心して子どもを産むことができる医療体制や、安心して子どもを預けられる環境づくり、子育て家庭の経済的負担の軽減などが必要です。また、既婚者が減少し、単身者が増加している傾向にあり、未婚化・晩婚化が進んでいることから、結婚を希望する方への出会いの場を創出していくことが必要と考えられます。このため、保健・医療・福祉・雇用など、結婚から子育てで支援まで総合的に取り組み、ニーズを的確に把握しながら施策展開し、結婚・出産の希望を叶え、すくすくと子どもを育てることができるまちづくりを目指しています。特に、ふるさと納税で多くの皆様に応援いただいているご寄附を財源として新たに「子育て応援基金」を創設し、「出産・子育て応援支援金」として新生児1人当たり10万円の給付のほか、高校生までの医療費自己負担分の助成や学校給食費の無料化など、「子育てに優しいまち」の実現に向けた施策を展開しています。また、これらの施策を道内外に効果的にPRするため、プロモーション動画を作成し、まちの特色や魅力と併せて発信することで、子育て世代の移住・定住に繋げていきます。

(4) 健康でいきいきと活躍できる共生社会を確立し、安心して住み続けられるまちをつくる

生涯にわたりだれもが健康的でいきいきと活躍できる共生社会を確立するため、外国人や障がい者、高齢者などが尊重され、選ばれる地域を目指していくとともに、医療・福祉等の充実や市民の健康意識の醸成を図る必要があります。また、限りある資源に配慮した循環型社会の実現や、快適な生活環境を確保するため、道路、上下水道、公共施設などの社会資本の老朽化対策を計画的に推進するとともに、二酸化炭素の削減や海洋環境の保全などに取り組んでいきます。特に、外国人との共生社会の確立を実現するため、私生活や就労等に関する一元的な相談窓口として、昨年11月「もんべつ国際交流ステーションすまいる」を開設したところであり、この「すまいる」を拠点として、より一層の外国人受入環境を整備するとともに、活発な交流事業の展開により市民意識の醸成を図り、誰もが安心して住み続けられるまちを目指していきます。



もんべつ国際交流ステーションすまいる



外国人交流事業の様子

(5) 地域を支える人を育み、住民参画による協働のまちをつくる

人口減少社会において持続可能なまちづくりを進めるには人づくりが不可欠であり、子ども達の未来を創造する力を育み、将来の可能性を広げ、生きがいと夢を紡ぐ教育を推進する必要があります。このため、学校・家庭・地域が連携し、学力向上や部活動強化、生活支援などに取り組み、より魅力のある教育環境を整備していくほか、地域との多様な関わりや機会を創出し、ふるさと紋別への愛着を深めていきます。また、市民や市民活動団体などが主体となり、地域の課題解決や活性化を図るための活動に積極的に協働していくとともに、その活動を通じて地域のリーダーとなる人材の育成に取り組んでいきます。特に、昨年実施された「全国学力・学習状況調査」において、小学校では調査開始以来、最も全国平均との差が縮まる結果となるなど、教育に関する取組みの成果が着実に現れ始めています。子ども達が自ら学ぼうとする意欲を持ち、将来の夢を描き実現する力を育むため、地域としてあるべき教育の姿を確立させ、紋別版一貫教育の構築を目指していきます。

おわりに

冒頭で触れているとおり、第2期紋別市総合戦略では「年齢や性別、障がいの有無や国籍などに関わらず、この街に住んでいる全ての市民が活躍でき、活気あふれ選ばれるまちづくり」を目指す姿としています。地方の姿は今、新型コロナウイルス感染症の拡大により生活やビジネスの様式が大幅に変革することとなり、併せて、デジタル社会の推進やゼロカーボンシティなど、人口減少対策に加えた多様な取組みが求められています。こうした全ての取組みが市民のWell-beingに繋がり、市民が元気に心豊かで安心した生活が送れる社会の実現を目指していきます。